

# 学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



## 主人公になるということ

子ども教育学科 堀之内 修

先日の宇品かがやきフェスティバル・広島都市学園大学学園祭での、子ども教育学科生一人ひとりの姿が目には焼きついています。それまでの取り組みや他学科生、教官、地域の方々・・・との関わりなどから、初めての体験（フェスティバル・学園祭自体は3回目）ゆえにどうなるのだろうかという杞憂を吹き飛ばす、一人ひとりの確かな出番と活躍（早朝からの準備、生き生きとしたブースでの作業・販売・呼び込み、ゆるキャラでのパフォーマンス、堂々たるステージでの発表、暗い中での後片づけ・・・）を目にし、さわやかな感動を覚えることができました。まさに、地域・学園総ぐるみという『祭り』の大きな集団の中で、いわば大きな渦の中で、埋没するどころか、流されるどころか、一人ひとりが、个性的にそれぞれの持ち味を、それぞれのやり方で存分に発揮していたのです。

私は、公立の小学校に勤務していた時、子どもたち、保護者、地域の方々、同僚＝先生方、そして、もちろん自分自身にも、一貫して言い続けてきたことがあります。それは、「主人公になろう！」ということ。楽しい学級・学年・学校をつくるために、一人ひとりが、いろいろな活動や場面の主人公になろうということ。す。

主人公とは、人から言われていやいや何かをする人のことではなく、自ら考え、判断し、進んで物事に立ち向かう人のことを言います。そういう子どもたちに育ってほしいと願いながら、「5つの主人公」をめざそう、なろうと言い続けてきました。

まず、第1に、「聞く・見る」主人公になろう。一生懸命、人の話を聞（聴）く、いろいろなことを見（観）る、そうすることにより、必ずや何かを感じ、気づくでしょう。学級・学年のすばらしさや、何よりも友だちや自分自身の良さ、すばらしさを感じとるはず。す。

第2に、「書く・話す」主人公になろう。自分の思いを相手や周りの人に伝えられる、わかってもらえる、「うん、なるほど！」と思ってもらえることは、とてもすてきな、大きな喜びです。

第3に、「考える」主人公になろう。いろんなこと、困ったこと、悲しいこと、苦しいこと、心配なことを解決するために、うんと考える。そう、スイミーのようにうんと考えることで、私たちは前に進んでいくことができるのです。

第4に、「友だちの苦しみや優しさがわかる」主人公になろう。学校は、友だちと一緒に生活し、勉強することで自分を豊かに成長させる空間です。友だちの思い（考え）をしっかりと聞きとり、受けとめることで、友だちの苦しみや優しさに気づくことができます。そして、自分の思いを友だちの思いと比べて、共感したり、自分の思いを伝えたりすることによって、自分の感じ方や考え方をさらに深く大きくすることができるのです。

第5に、「困難から目をそらさず、困難に立ち向かい、全力でやり抜く」主人公になろう。そして、「明日への夢と希望を持ち続ける」人になってほしい、と心から願っています。

「一人ひとりが、学習や生活の中で、全力を出してやり抜く経験を持てば、『やればできた』という達成の喜びをつくりだす。喜びの前には苦しい時があるかもしれない。しかし、自分が苦しい時にはみんなも苦しい時なのだし、みんなで励まし合い、声をかけ合う仲間の力で、一人ではできなかったことができたというすばらしい経験を得る。はじめは力を出し切ることもしないで、また、心を一つにすることもしないでいたのが、学習や生活の中で、自分にも必ず、何かはできるという自信と、みんなで心を一つにするのすばらしさを身に付けてくる。こうした達成感が明日への希望となり、『達成の喜び』が、『明日への意欲』へとつながる」（広島大学 故・吉本均先生のことば）のです。

我が学科生一人ひとりの先日の姿は、「ああでもない、こうでもない」と言い合い、支え合いながら、あの大きな集団の場の中で、主人公として、達成の喜びを（それぞれが个性的に、それぞれのやり方で）感じとった局面ではなかったでしょうか。これからも待ち受けているであろう『未来の教師・保育士をめざそうとしているあなたたち』の前に立ち現われる困難は、仲間とともに必ずや克服していくことができると確信しています。

『学ぶとは、誠実を胸にきざむこと 教えるとは、共に希望を語ること』（フランスの詩人、ルイ・アラゴン）